



2020

年度

なごや環境大学森林プロジェクト
活動報告書

目次

はじめに	3
なごや環境大学 森林プロジェクトについて	4
森イキ！デザインングプロジェクトについて	6
Section 1 森イキ！デザインングプロジェクト	
2019 年度 成果発表会 in 設楽町	9
木琴づくりワークショップ.....	14
Section 2 森林スキルアップ講座	
第 1 回 「里山の自然と都市のみどり」	20
第 2 回 「里山とはどういう自然なのか」 ～人が自然とつきあうために～	22
Section 3 猿投、御嵩、八事 森林整備体験講座	
猿投の森 森林のサイクルを学ぶ！間伐体験講座	24
水源の森・みたけで水源保全と森林活動体験講座	28
八事の森の整備体験会	32
Section 4 名古屋の森の映えスポット探し！	
森の創出と森の保護 戸田川緑地・熱田の杜	38
森とまちづくりを考えよう 平針の森・志段味の才井戸流	42
映える動画をつくってみよう！	44
グリーンフォレスターと語ろう！「生物多様性を高める森づくり」	46



はじめに

2019年3月「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立・公布され、森林環境譲与税は、市町村においては間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の「森林整備及びその促進に関する費用」に充てることとされました。

なごや環境大学はこれを受け、森林環境譲与税を活用した「森林プロジェクト」を新たに立ち上げ、多種多様な人材が集まるなごや環境大学の資源を活かし、協働するプログラム「森イキ！デザインプロジェクト」を名古屋と設楽町を結び行いました。

2020年度は、「森イキ！デザインプロジェクト」の報告会に加え、森に関する講座を企画・運営する団体等と協働し、森林管理の体験を通じて森林ごとに抱える課題とその解決策を考える講座を開催しました。

また、なごや環境大学のネットワークを生かして、岐阜県立森林文化アカデミー及び岩間造園株式会社と連携し、みどりの保全活動に取り組んでいる団体等を対象に、「里山とはどういう自然なのか」をテーマに基礎知識に関するスキルアップ講座を開催しました。

次世代を支えるユースに対しては、「名古屋の森の映えスポット探し！」と銘うち、市内に点在する森ごとに、抱える課題について考え、映像によりSNS配信を行う講座を開催し、講座に引き続き、スイスとオンラインで結び、作成した映像について、スイスのグリーンフォレスター（森林管理官）と学生が意見交換を行いました。

なごや環境大学は、「環境首都なごや」・「持続可能な地球社会」を支える「人づくり・人の輪づくり」を進め、行動する市民、協働する市民として「共に育つ（共育）」ことを目的とし、市民／市民団体（NPO）・企業・教育機関・行政が立場や分野をこえて協働で運営し、知識や経験、問題意識を持ち寄って学びあうプラットフォームです。

森林環境譲与税の活用を通じて、市民への普及啓発や人材育成、グリーンインフラの整備など、森林整備の促進に向けた取り組みを実施し、持続可能な社会づくりや新たな人づくり・人の輪づくりに活かしてまいります。

2020 年度 なごや環境大学 森林プロジェクト

について

project
概要

なごや環境大学による、森林での活動
を通じた環境保全とくらしをテーマ
としたプロジェクトです

全体像

2020 年度は、11 のプログラムで
参加者を募り、講座や体験会を実施
しました。

section
01
project

森イキ！デザインングプロジェクト



2020 年 10 月 17 日 (土)
SDGs 教材づくり・デザインングプログラム
木琴づくりワークショップ

場所：エコパルなごや (名古屋市中区)



2020 年 10 月 31 日 (土)
森イキ！デザインングプロジェクト
2019 年度 成果発表会 in 設楽町

場所：神田ふれあいセンター (愛知県北設楽郡設楽町)

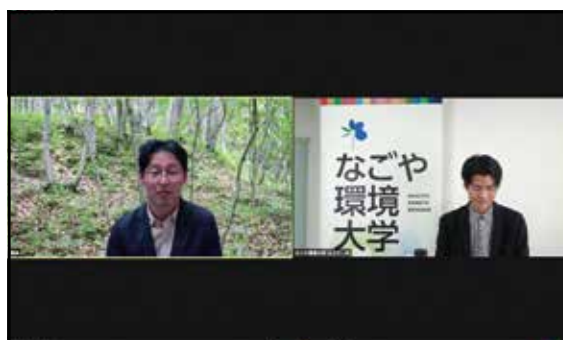
section
02
skill up

森林スキルアップ講座



2020 年 11 月 24 日 (火)
森林スキルアップ講座 第 1 回

場所：名城公園 (名古屋市北区)



2021 年 3 月 3 日 (水)
森林スキルアップ講座 第 2 回

ZOOM ウェビナー オンライン開催

section
03
experience

森林整備体験講座



2021 年 3 月 9 日 (火)
猿投の森
間伐体験講座

場所：愛知県瀬戸市



2021 年 3 月 13 日 (土)
水源の森・みたけ
水源保全と森林活動体験講座

場所：岐阜県御嵩町



2021 年 3 月 24 日 (水)
八事の森
整備体験会

場所：名古屋市昭和区

section
04
spot

名古屋の森の映えスポット探し！



2021 年 3 月 17 日 (土)
森の創出と森の保護

場所：戸田川緑地公園 (名古屋市港区)・
熱田の杜 (名古屋市熱田区)



2021 年 3 月 20 日 (土)
森とまちづくりを考えよう

場所：平針の森 (名古屋市天白区)・
志段味の才井戸流 (名古屋市守山区)



2021 年 3 月 24 日 (水)
映える動画をつくってみよう！

場所：エコパルなごや



2021 年 3 月 24 日 (水)
グリーンフォレスターと語ろう！

ZOOM ウェビナー オンライン開催

森イキ！ デザインング プロジェクト

森イキ！デザインングプロジェクト

について

森林での活動による環境保全とくらしをテーマとした、なごや環境大学によるプロジェクトで、森林を活かす現場での学びと企画実現を試みる参加型プログラムです。

地域や森林のことを知り、楽しく体験しながら森林の課題や問題点を整理し、魅力を発見しながら自由にアイデアを出し合い、森林活用のアクションまで参加者自らが“デザイン”していく「デザイン思考型」プログラムです。

プログラムディレクター

杉野実（「なごや環境大学」実行委員／M1_Project デザインプロデューサー）

プロジェクト概要

当プロジェクトのデザイン思考ステップ

デザインステップ

1. 与件の整理
目的・課題の整理
仮説立て（イメージしてみる）
2. 観察や体験（調査・分析）
共感する、感じ取る
3. 仮説の肯定と否定
目的や問題点の整理（問題定義づけ）
4. アイデア出し（アイデア拡張）
スケッチ化・文字化・キーワード化
5. コンセプト抽出
テーマ化
6. アイデア出し（アイデア集約）、まとめ
7. 試作・アイデア検証
8. デザイン
9. 実行ステップへ

キーワード

森イキ！
デザインング
プロジェクト



フィールド

愛知県北設楽郡設楽町 神田（かだ）地区



第二東名高速道路・新城インターから車で40分。「空」の銘酒で有名な田口の町を抜けたところに、ひっそりとたたずむ奥三河の里山集落です。この集落はおよそ300年前に伊勢神宮にお米を奉納したことから、「かみのた」「神田」の地名となりました。この神田はカルデラ地形で、すり鉢状の地形ながらも豊かな実りをもたらしてくれます。神田に流れる川のほとんどが板敷き川で、美しい川の中を何kmも歩くことができます。先祖は、源氏・平家の落ち武者が大半をしめ、周りを山に囲まれた静かな山間の集落です。おもな産業は林業でしたが、時代の流れに押されて里山や森林、田畑も荒れていく課題に直面しています。



拠点施設

神田ふれあいセンター・神田町民センター

神田ふれあいセンターは、廃校となった神田小学校の元校舎等を利活用した青少年教育施設です。普段は、地元の方や施設を訪れ野外活動をする方たちとの交流を目的に運営されています。森に囲まれた木造校舎の懐かしくあたたかな雰囲気が魅力です。



実地フィールド
神田区内森林

神田地域の私有林の一角が当プログラムのフィールドです。森を少し抜けたところには、美しい板敷き川が流れています。

これまで開催のプログラム 5つのデザイン STEP で森をイキイキ！

基本プログラムとして、一つの森を実験場に、山道から川べりまでの小道づくりを参加者全員で行いました。地元の方から森の話を聞き、間伐体験をして、参加者みんなで小道のデザインや木の利用方法など、アイデアを出しながら周辺整備をしました。後半のプログラムでは、イベントの企画や森を活かす仕組みづくりなど、発想を広げて森の活性化につながる提案をデザインしました。



2019年8月3日（土）STEP 1 知ろう！地域と森林のこと

- ・プロジェクトの概要説明
- ・神田の木を使った名札づくりと自己紹介
- ・フィールドとなる森の見学と神田の人から地域のお話を聞く
整備する神田区長の近藤さんの森で、神田の地形や歴史の話を伺う

2019年8月31日（土）STEP 2 実践してみよう

- ・基本プログラム（小道づくり①）
木を切る前の儀式、間伐の体験や切った木の皮をはぐ、落ちている枝を拾いまとめるなどの整備
- ・間伐＆木材の使われ方見学
森林組合と木材協同組合の作業場に行き、森の木の間伐の仕方と、切られた木がどのように加工され、いろいろなものに使われ流通させるのかを見学

2019年11月2日（土）STEP 3 実践から自分たちのやりたいことを考えよう

- ・基本プログラム（小道づくり②）
小道づくりの続き。拾い集めた枝のウッドチップ化も
- ・問題点の定義～アイデア出し
森や河原で枝や苔を集め「自分の作りたい森」を箱庭ジオラマで表現



2019年11月30日（土）STEP 4 発想を膨らまそう

- ・基本プログラム（小道づくり③）
ベンチと森の入口となる階段づくり
- ・やりたいことから具体的なアイデア展開へ
グループに分かれ、設案の森の活性化のアイデアや森で行いたいことなどを出し合うワーク

2020年1月18日（土）STEP 5 アイデアから実際につくってみる

- ・基本プログラム（小道づくり④）
集めた枝をウッドチップにして小道にまいたり、前回のワークで出たアイデアから、ベンチやブランコを作る
- ・デザイン提案づくりワーク
成果発表会に向けて、各グループでアイデアを具体的な提案書にするためのワーク

section 01 project

森イキ！デザインプロジェクト

森イキ！
デザイン
プロジェクト

2019年度 成果発表会 in 設楽町

森イキ！
デザイン
プロジェクト

2020年10月31日（土）10：30～14：30

神田ふれあいセンター・神田町民センター・神田区内森林
（愛知県北設楽郡設楽町）

講師 設楽町神田区長 近藤肇、
なごや環境大学実行委員 杉野実（M1_Project デザインプロデューサー）

今回のフィールド

神田ふれあいセンター・
神田町民センター・神田地区森林



2019年8月から始まった森イキ！デザインプロジェクト。5つのステップを経て、地域で暮らす人や関係者に向けて活動内容を知っていただくとともに参加メンバーが実感の中でまとめ上げた提案を発表しました。

また、午後からはフィールドとして整備された森へ入り、鳥の巣箱を設置し“森びらき”を楽しみました。



地域の人に向け、デザインを発表



ちーむ 神田の湯。 森イキ！神田イキ！温泉プロジェクト

メンバー 深津あづ美、佐々木久美、中嶋桂吾、中森浩二

人口減少、過疎化によって、森を手入れする人が不足する課題に着目。神田の源泉を活かした街の活性化を提案しました。冷たい源泉を沸かすために、間伐材を活用して森を活用。温泉施設が働く場となり、移住者が集まり、温泉が町のシンボルとなって地域活性化するという3つのポイントを押さえています。温泉を作る資金や地域への集客の課題に対しては、2種類のイベント開催を提案。



【提案】 2タイプのイベントを開催

①体験・参加型の小規模イベント

歴史+自然、農業体験、森林浴など行くたびに発見がある内容

②恒例の大規模イベント

毎年恒例のイベントとして、トライアスロンのような「カダアスロン」を開催

すぐ実行可能な企画

神田のいいところ駆け抜けフェスティバル

木造建築の旧神田小学校を見学。里山風景を見ながら田んぼのあぜ道を散策。森の公園や川のほとりなどで昼食。カルデラ地形の板敷川を歩く、自然と触れ合う体験型のイベント

神田応援団 みんなのふるさと計画

メンバー 中島典子、中島彩瑛、中島詩乃、渋江悠希、近藤肇

神田地区の人は、訪れた人を子どもや孫のように接してくれる。「この地域がみんなのふるさとになってほしい」という思いから生まれた企画。神田地区の人たちに見守られながら、子どもは神田の自由研究所の所員として動物の痕跡探しや落ち葉比べで自然を味わい、大人は神田生活研究所の所員として梅干し漬けや田植えなど、生活が豊かになる体験を行います。



【提案】 みんながふるさとに関わるために

- ➡地域通貨を作り、研究所の運営を地域通貨で行う
- ➡「関係人口」を登録する

わたしができる少しのこと

- ➡名古屋から行きたくても行けない人に魅力を伝えるために、楽しそうな写真を友人にアピール
- ➡神田の森の開放日に子どもたちは遊び、親は森の手入れをする

チームヒル 設楽町ヒルパーク

メンバー 安井早苗、安井飛翔、安井勇人、神谷圭吾、加藤美奈、田中創

空氣がきれいで、川や木や草など遊べるものがいっぱい設楽町の森。まるでおもちゃ箱のような素敵な場所ですが、「ヒルがたくさんいて怖い」という課題が。しかし、ヒルも一つの命。嫌われ者ではかわいそうだと子どもたちと考えたアイデアが、ヒルの住処である森を活かし、ヒルをコンセプトにしたテーマパークを作る企画です。ヒルの観察をして、ヒルがいても楽しく森で遊ぶ方法を習得できます。



【提案】

- ヒルパークのキャラクター
- ヒルパークのあそび
ターザンロープ、ハンモック、顔はめパネル、ヒル探しゲームなど
- ヒル神社
ヒル祭り、ヒル絵馬、ヒルお守り、ヒルおみくじ
- ヒルパークのおもてなし、おみやげ
鉄分入りのヒルあめ・クッキーなど

私たちがはじめられる一歩

ヒルパークのチラシを作って、学校や学童、子ども会に配る
(活動内容、定期メンバー募集、単発参加募集)



森守人 短所こそ長所

メンバー 山根由士、緒方隆文、岸晃大、西裕史

少子高齢化の「老人の里」、森の中や近辺に生き物が少ない「生物多様性」、交通アクセスの不便さ「遠い」、樹種が単調化し、木材活用法に制限がある「森の活用」といった4つの課題に着目。それらの短所を長所に変換して企画しました。

【提案】

- 都市部と山村の人や森との繋がりを紡ぎ、ストーリー作りのお手伝い
イルミネーション、アートコンペ、林業体験など
- 人が生き物と共存しつつ、暮らしやすい環境づくりを調査し、
災害にも強い森林整備や地域の多様性のある自然環境を保護する
生き物の家作り、地域ビオトープ保全など
- 道中を楽しむ工夫や仕掛け作り、新しい魅力発見・発掘
グリーンツーリズム、スタンプラリー、レンタサイクルなど
- 建築材の木材活用だけでなく、森全体を暮らしに関わる資源として活用する
方法や、未来につながる持続可能な森の価値を考える
植樹イベント、火起こし体験、森の特産品づくり

私たちのはじめの一歩

森守人宣言 10か条



「森の学校」開設チーム

～森で学ぼう！遊ぼう！楽しもう！～みんなの学校 REBORN プロジェクト

メンバー 今村朋範、長澤哲也、山口ゆずみ、遠山直人

「地元の人が神田地区の魅力に気付いていない」という課題に対して、神田地区の魅力を再発見して発信する「森の学校」を企画。人が集まることによって、神田がにぎわい、飲食店や宿泊施設などの産業が生まれます。

【提案】 森の学校を開校

- 神田の魅力からさまざまな科目をつくり、1日もしくは2日の授業を受けられる
＜授業の一例＞
国語：伝統芸能（民謡、舞踊）の体験
社会：武田・織田・徳川の兵の夢の跡を探そう
技術科：DIYで学校を修理しよう

- SNSで森の魅力を発信
- HPを作成して、定点カメラで星空や学校の様子を発信
- 全国の「神田」を集めて、「神田」サミットを開催

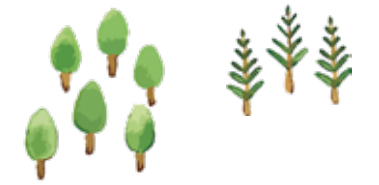
私たちのはじめの一歩

まず、私たちが楽しむ！メンバーそれぞれが都会の知人や家族に呼び掛ける。私たちがイキイキしていると、周りのみんなが興味を持って集まってくる。周りの人も神田を訪れてイキイキに！



森で鳥の巣箱を設置、森びらき

過去開催のプログラムに参加したメンバーは森を再訪。今までの記憶を呼び起こしながら、森の楽しさを一緒に作業した仲間たちと共有しました。鳥の巣箱を設置し森びらきをして、整備を一区切りできた実感を得ることができました。



森のすぐ横を流れる板敷川は、美しい川の中を何kmも歩くことができるカルデラ地形が生み出した貴重な場所です。



自分へのプレゼント、記念品として、オリジナルで木のコースターを作りました。成果発表会で企画した「ヒルパーク」のキャラクターを描いた参加者も。プログラムに参加した実感を持ち帰ることができました。



神田区長の近藤さんをはじめ、地域の人とプロジェクトを通じて整備した森に入りました。中には何十年ぶりにこの森を訪れたという人も。「昔はかまどでご飯を炊いていたから、よく薪を拾いに来ていた」といった貴重な話も。森で過ごす楽しい時間はあっという間ですが、かけがえのない体験となりました。



木琴づくりワークショップ

森の木から楽器をつかって しぜんの音色をかなでよう！

2020年10月17日（土）10：30～12：30

エコパルなごやワークショップルーム（名古屋市中区）

講師 設楽町神田区長 近藤肇、デザイナー 中森浩二（TIPTOP 代表）、
なごや環境大学実行委員 杉野実（M1_Project デザインプロデューサー）

今回のフィールド エコパルなごや

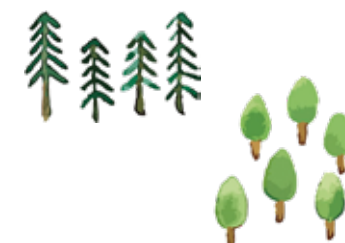
エコパルなごやは、身近な環境から地球環境まで幅広い視野で環境問題を考え、取り組んでいくための第一歩となる環境学習の拠点施設です。館内は、「バーチャルスタジオ」「展示室」「ワークショップ」からなり、マスコットキャラクター“コパ”とともに、子どもから大人まで体験と対話を通して楽しみながら深く学べる工夫がされています。



今回は、森の木でできた「けんぱん」を組み合わせて、自分だけのオリジナル木琴を作るワークショップ。愛知県設楽町神田地区で森の手入れをしている方のお話を聞き、選んだ木のけんぱんに絵を描いて完成させました。



ヒノキとスギの木を感じながら、叩いて音を出したり、においをかいだりして1本ずつ好きなけんぱんを選びます。「正しい音階にならないですが、自分が好きな音階を作ってオリジナルの木琴を作りましょう」と話すのは、講師の中森さん。木琴のデザイナーになったつもりで材料選びが始まりました。



設楽町の木を知る、違いを見つける

設楽町の材料を使って、つくられたヒノキとスギの木のけんぱん。設楽町の写真や森の話とともに、それぞれの木の種類の違いや特徴、においや触り心地などを確認しました。木の硬さや長さによって音が異なり、種類を混ぜることで音階のある木琴が出来上がります。





アイデアを膨らませ、木琴をデザインする

木の土台に8本の木のけんぱんを貼り付けます。
木琴に絵を描く前に、アイデアを膨らませるワークシートに記入しました。



ワークシート①

アイデアを膨らませよう

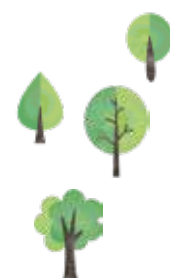
- ・「森のお話」を聞いて、思ったこと、感じたことを言葉で書く
- ・森には何がある？いる？
- ・森を見て、感じた色は何色？

ワークシート②

アイデアから実際にデザインする

アイデアで出した「言葉」「もの」「色」から感じて、実際に描いてみる

- ・どんなデザイン（絵柄）にしたい？木琴のタイトルを考えよう
- ・生まれたアイデアを元に、思いっきり描いてみましょう（イラスト、マンガ、模様など何でも OK）

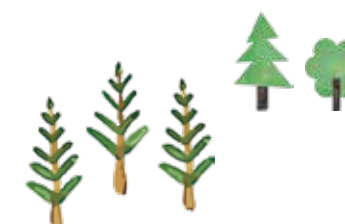


オリジナル木琴が完成！子どもたちの「デザイン」体験に



膨らませたアイデアを描き、自分の作った唯一の木琴が完成しました。好きなアニメをモチーフとしたけんぱんや2019年に訪れた設楽町の風景を描いた木琴など多彩な仕上がりに。「小さい子どもに実際の香りを感じながら、木に触らせてあげられてよかった」という保護者の声も寄せられました。

デザインとは課題解決



今回のワークショップを通じて、森の大切さや木のことを
知ることができ、デザインで何かできそうな気がしました。

段階を追って、
出来上がる！

デザイン

課題→理解→自分で考える→考えたことを形にする

「森をデザイン
する」とは？

森→課題を理解→木の活用→価値あるモノにする
＝森イキ！デザインプロジェクト

さまざまな問題解決
＝デザインを実行！

F o r e s t

P r o j e c t

A c t i v i t y

R e p o r t



森林スキルアップ講座



森林が持つ温暖化防止・災害防止・水源かん養などの機能は、都市で暮らす私たちにも広く恩恵を与えてくれています。なごや環境大学では、持続可能な社会づくりを推進するため、森林の有する機能の普及啓発や森林整備にかかる人材育成等の取り組みを進めています。

このたび、岐阜県立森林文化アカデミーと連携し、自然保護・緑地保全等の活動をされている方々を対象に、みどりと付き合うための知識・管理技術等を学ぶスキルアップ講座を2回にわたって開催しました。

第1回 森林スキルアップ講座 「里山の自然と都市のみどり」

2020年11月24日（火）13:00~16:30

名城公園・名城公園フラワープラザ
(名古屋市北区)

講師 柳沢直（岐阜県立森林文化アカデミー教授・植物生態学）、
田中脩斗（岩間造園株式会社）

今回のフィールド

名城公園・
名城公園フラワープラザ

普段、自然観察員として活動している参加者に向け、みどりに関する知識の増やしてもらう目的で講座が開催されました。まず「里山の自然」について柳沢教授から講義を受け、「都心のみどりと地域のつながり 管理の工夫」について田中さんから学びました。



里山とは、人が農業や生活に利用してきた自然のこと。水田を中心とした集まりであり、生態系豊かで弥生時代から続いているといわれています。燃料で木材が使われなくなったことにより手入れがされなくなる里山林の課題やアカマツ林の手入れについて解説。また、絶滅危惧植物の増加、水田と河川のつながり、水田の生物の減少要因について学びました。

里山の自然とは？

- ・人が手を加えないと維持できない（半）自然
- ・有史以前から人と生物がつくり上げてきた大切な自然

→ 一種の文化財のようなもの



都心のみどりと地域のつながり 管理の工夫

名城公園の指定管理者である岩間造園株式会社の田中脩斗さんによる講座では、指定管理者制度の活用や管理保全におけるガイドラインの必要性を学びました。また、東京都府中市にある都立浅間山公園で活用されている「保全管理ガイドライン」の作成プロセスも紹介。



公園を創り育てていくのは、皆さん一人一人



実際に保全・管理されている名城公園を散策

名城公園内を散策しながら、企業スポンサー花壇や利用者への植生の案内、季節ごとの植物分布・管理方法などを紹介。場所によって、見晴らしを良くするために木の高さ工夫しているそうです。モズやメジロ、セグロセキレイなどの野鳥がやってくるナチュラルガーデンや、秋の色に染まるけやき並木も散策。



ケイトウが植えられているのは「レイズドベッド」と呼ばれる花壇。地面より高さが出るように土を入れて植物を育てているため、腰をかがまなくても作業がしやすく、車いすの方も楽しみやすいデザインになっています。



名城公園内にあるスターバックスコーヒーで出るコーヒー豆かすは、堆肥に利用



第2回 森林スキルアップ オンライン講座

「里山とはどういう自然なのか」～人が自然とつきあうために～

2021年3月3日（水）13：00～15：00

Zoom ウェビナー（オンライン）

講 師 柳沢直（岐阜県立森林文化アカデミー教授・植物生態学）



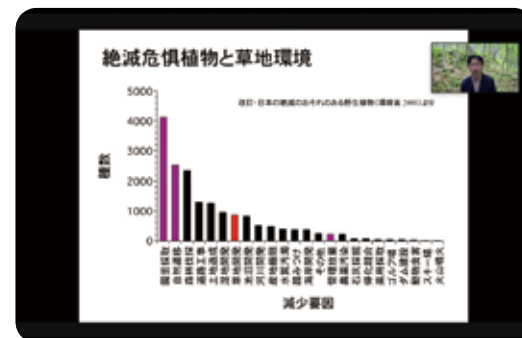
岐阜県立森林文化アカデミーとは

森や木に関わる生き方を目指す人のための専門学校「岐阜県立森林文化アカデミー」。日本の森林や林業を元気にしていくために、岐阜県美濃市に開学した国内でも珍しい学校です。敷地内には、morinos（モリノス）という森林総合教育センターもあり、幼児から大人まで体験を通じて森の楽しさを知ることができるコミュニティが生まれています。



里山と水田の関係性

里山は水田を中心とした生態系で、里山林、ため池、用水路など稲作をするのに必要な要素が存在しています。水でつながる流れを生み出し、稲が育って米を収穫でき、かつては米を炊くのに必要な薪を里山林で拾っていました。つまり、水田耕作の要素は、里山の中で完結していたのです。時代を経て、さまざまな開発が進んでも水田には原生的な自然が残っています。しかし現代では農業のやり方を変えてしまい、水田で暮らす生き物が失われつつあります。



雑木林とカタクリの関係について

基本的に雑木林、落葉の広葉樹林に生育するカタクリ。春植物であり、林の中がある程度明るく、気温の高い、3月の終わりから4月終わりに花を咲かせます。気温が低い2月は十分な光合成ができず、5月以降は雑木林の上層のコナラやシデが芽吹き、葉を広げるため急激に明るさが減ってってしまうため、1年のうちに1カ月間の隙間を使って、花を咲かせて子孫を残しています。このように春植物は、落葉の広葉樹林がなければ生き残れない存在なのです。

つまり、照葉樹林が分布する地域（西日本中心）ではカタクリは生きていけません。しかし、縄文時代には照葉樹林を切り開き、里山が生まれていたのでしょうか。カタクリが照葉樹林帯に残っているのは、人間が林を使い続けていたおかげかもしれません。



絶滅危惧植物が増える要因

秋の七草のうち、オミナエシ、フジバカマ、キキョウの3種類は絶滅危惧植物です。（地域によってはカワラナデシコも加わる）長野県にある開田高原は、秋の七草（フジバカマ以外）が見られる草原です。なぜ残っているのかは、牛のエサで利用するために草刈りをしながら継続して草原管理ができていたからです。人が草原に手を入れ続ける状況が現代では難しいため、こういった草地がどんどん減っています。

また、絶滅危惧植物の減少には、園芸採取や草地が開発で失われてしまうケース、管理放棄で荒れてしまうなどの要因があります。草地の植物が減少・絶滅すると、その植物しか食べられない昆虫も自動的に絶滅してしまいます。人間が手を加えなくなることによって、いろいろな生き物がいなくなってしまうのです。

人が手を加えないと維持できない「半自然」とは

半自然とは、畑に種を蒔いたり、木を植えたりすることではなく、元々そこにあった自然に人間が手を加えながら使っていくことです。古くから人間は雑木林や草地に手を加えてきました。現代的な里山は、持続的に人間が自然を利用してきた結果ともいえ、価値のある存在です。人と里山との付き合い方の変化によって、さまざまな生態系が失われつつあります。人それぞれ里山の価値を見つけ、積極的に関わっていくことが大切です。

猿投、御嵩、八事 森林整備体験講座

森林には温暖化防止、災害防止、水源を育むなどの機能があり、森林の適切な整備を進めていく必要があります。間伐などの育林体験をし、森林整備の方法やサイクルについて学ぶプログラムです。



森林のサイクルを学ぶ！間伐体験講座

2021年3月9日(火) 9:30~13:00

猿投の森(愛知県瀬戸市)

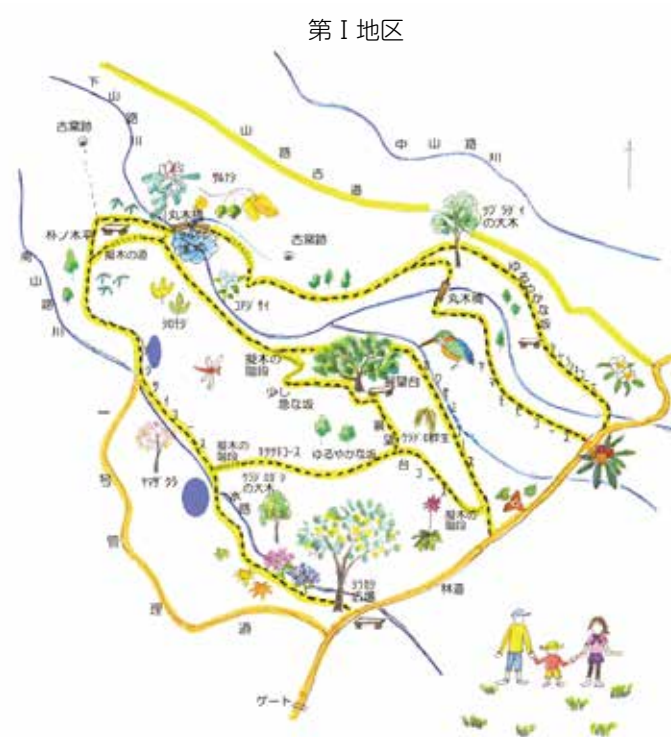
講師 猿投の森づくりの会

今回のフィールド

猿投の森



愛知県瀬戸市東部の上山路町にある猿投山(629m)の西斜面に位置しています。焼き物の町・瀬戸の裏山として人々の暮らしを支えてきましたが、過度な森林伐採によって禿げ山などの荒廃地が広がった時期もありました。しかし、その後の積極的な治山工事活動によって緑豊かな森に回復しつつあります。



公益社団法人 日本山岳会東海支部 猿投の森づくりの会

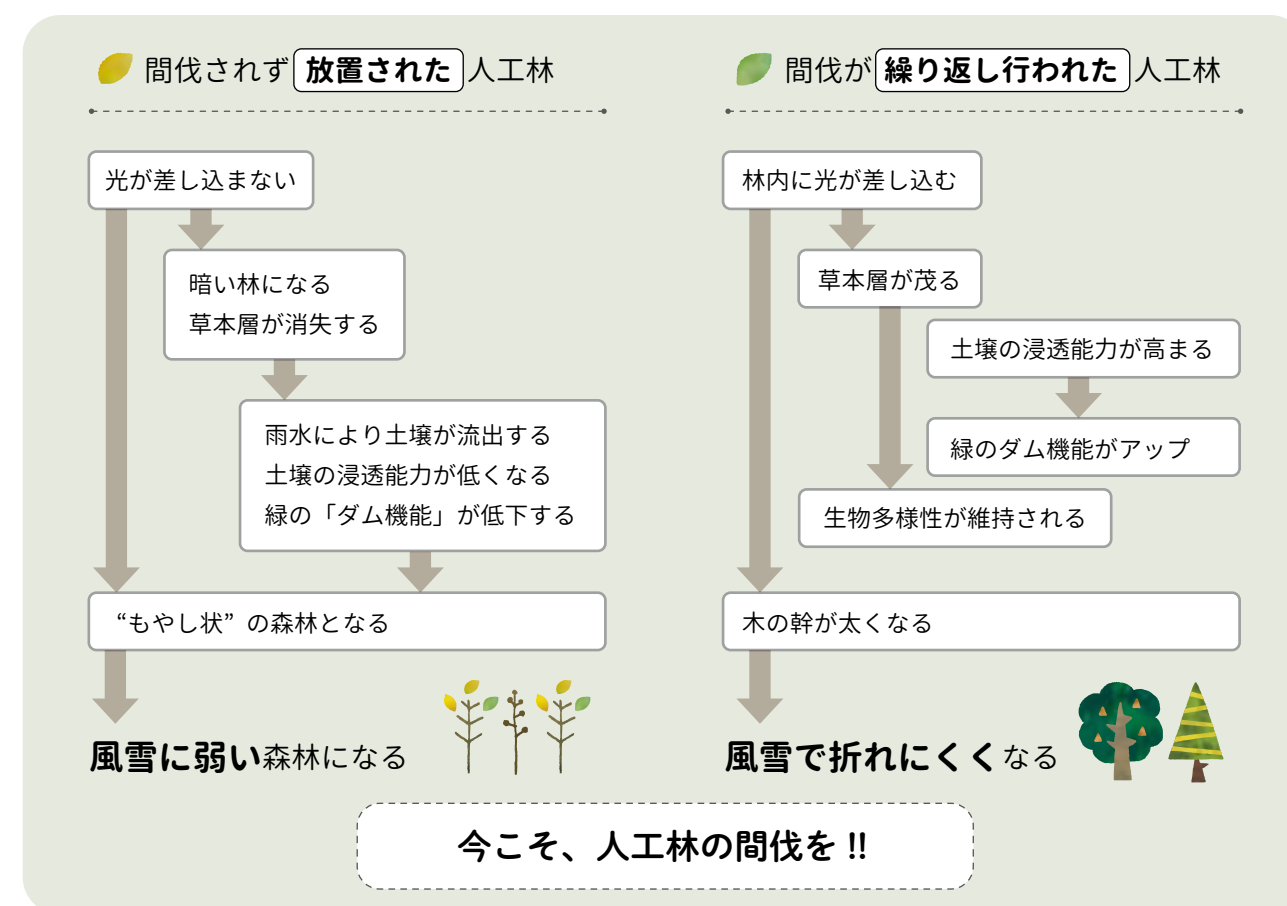
猿投の森の移り変わりを学ぶ

江戸時代から明治時代、第二次世界大戦中から戦後期は、瀬戸市一帯は広大な禿げ山地帯でした。要因は、人口増加による薪や枝葉、下草の搾取や窯業による陶土採掘といった陶磁器産地ならではの側面もあります。それによって森林土壌が衰退しています。また、尾張丘陵地の地質は硬く固結していないために浸食を受けやすく、降雨のたびに山が削られていました。明治期、戦後期に禿げ山復旧工事を行い、現在では、コナラ、リョウブ、ソコゴ、ヒサカキが優占する二次林が広がっています。



人工林の管理について

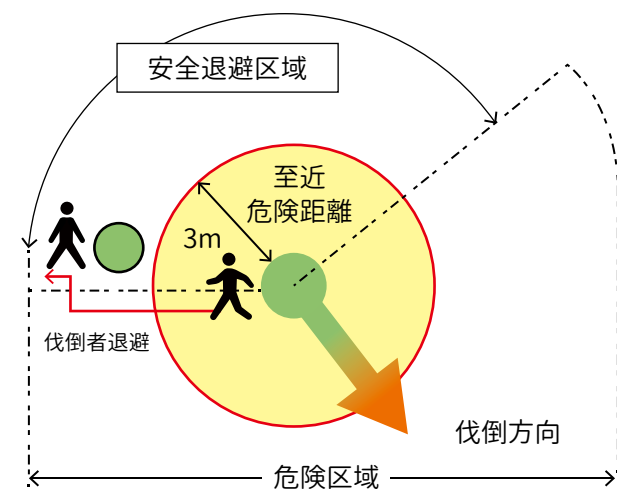
間伐されず放置された人工林と、手入れされた森林の違いについて、間伐の必要性について学びました。





間伐の体験

人工林の間伐の必要性を学んだところで、伐倒方法を説明してもらいました。その後、実際にひのき2本の間伐体験を行いました。太いひのきは、講師によるチェーンソー実演。細いひのきは参加者が手鋸により作業し、胸高直径、樹高、年輪を測定しました。



除伐作業手順

<伐倒準備>

- 1 伐倒方向の決定
- 2 周囲の安全確認
- 3 作業周りの整理
- 4 ロープ掛け



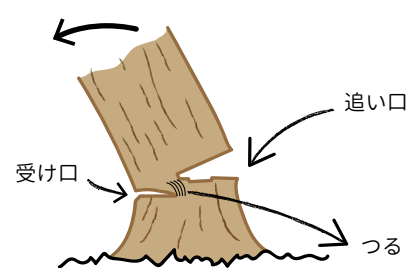
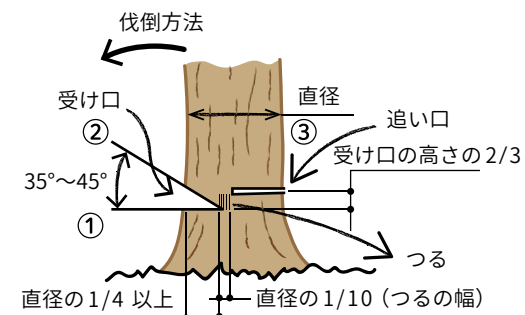
<伐倒作業>

受け口を作る(伐倒方向に設ける)

- ・高さ：なるべく下側の切りやすい位置
- ・深さ：樹径の1/4～1/3(大径木)以上
- ・下切りは水平に、斜め切りは30～45度に
- ・下切りと斜め切りは、終わりの部分で一致させる

追い口を作る(受け口の反対側)

- 1 伐倒者は伐倒する時に、倒す方向を指差し、必ず笛、または「倒れます」と周りの人に知らせる
- 2 他の人が樹高の2倍の範囲から離れているのを確認する
- 3 受け口の下から3分の2の高さで水平に切り込む
- 4 つるの幅が10分の1になる前に一旦やめ、安全退避区域に避難する
- 5 伐倒者が「引く」の合図をし、その後ロープの引き手がロープを引く
- 6 ゆっくりと倒れるまで、3・4・5を少しずつ繰り返す



自然観察・森を散策



樹木の解説をしていただきながら森を散策。樹木の名前や特徴、それらがどう生活と結びついているのか説明を受けることで、木の一本一本に意識が向き、それまでの何倍も自然を楽しむきっかけとなりました。



水源の森・みたけで水源保全と森林活動体験講座



2021年3月13日（土）10:00~16:30

水トラストの森(岐阜県御嵩町)

講師 特定非営利活動法人 みたけ・500万人の木曽川水トラスト

今回のフィールド

水トラストの森



発足して20年以上、森林保全活動を行っているみたけ・500万人の木曽川水トラストの皆さんに、炭焼き作業や伐倒の見学、薪割り体験をさせていただきました。岐阜県御嵩町にある水源の森・みたけの森が「水トラストの森」と呼ばれる由来について歴史を踏まえて学びました。

みたけ・500万人の木曽川水トラストの成り立ち



はじめは1990年代。岐阜県御嵩町に産業廃棄物処分場建設計画が持ち上がりました。豊かな自然を破壊するとともに、木曽川の水源地に隣接する地域に産廃処分場を作ること、名古屋市をはじめとする流域の500万人の飲み水に影響することを危惧し、各地で反対運動が起こっていました。

「下流の名古屋市民が出したゴミを上流である岐阜に押し付けている」と疑問を抱いた大沼淳一さんをはじめとしたメンバーで発足したのが同団体。1997年、御嵩町の住民投票の結果、産廃処分場建設計画が白紙になった後も木曽川の源流であるみたけの森を守るため、毎月第二土曜日に里山保全活動を継続。団体メンバーは名古屋市民が中心で、さまざまな職種の人が世代を問わず集まり、年間約300人が訪れています。



炭焼きを体験

今回は、竹を切るところからスタート。のこぎりを使って窯のサイズに合わせて切り落とし、炭焼き窯に材料を詰めていきます。火を焚いた窯の中では、木の中の燃えやすい成分だけが酸素と反応して熱を出し、燃えにくい成分は分解して炭になる現象が起きます。



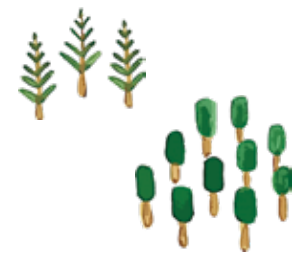
火の番と煙の温度測定、煙の色の観察をしながら焚口を閉じるタイミングを探ります。煙の温度の目安は60～70度。一定温度で数時間焚き続けます。木の水分が蒸発するため、煙をさわると湿り気が感じられます。煙が透明になると炭焼き終了。口をレンガで閉じてから約1カ月後に炭は完成し、窯から取り出せるようになります。



森の散策、座学で「水源の森」の歴史を学ぶ



森を散策し、植物の種類や見た目の違い、間伐して明るくなった様子を観察しました。間伐した木は、原木しいたけの栽培に利用。アベマキ、コナラ、クヌギの落葉性広葉樹が使われています。参加者自ら収穫し、昼食時にストーブで焼いていただきました。



団体メンバーで一から作り、日々補修している作業小屋で座学。木曽川水トラストの活動と水源の森を支え続ける必要性を知り、講師の大沼さんは「木曽川の上流・みたけの人たちが下流の水源を守ってくれた。それを下流の人にも知ってほしい」と訴えました。団体の目的の一つである「上流と下流の不公平を無くすこと」についても関心が高く、参加者それぞれが自分事として捉え、感想を共有しました。

チェーンソーによる伐倒を見学



【間伐方法】

選木方法：鋸谷式密度管理法（1ha あたり胸高断面積 35㎡、形状費 70 以下の風雪害に強い林分を目指す）

- ・ 4 mの釣り竿で約 50㎡の円を描き、残す木に目印テープを巻く
- ・ 樹高、年輪、胸高径を測定
- ・ 伐倒木はそのまま切り捨て。保残木は 10m までの枝打ち
- ・ 広葉樹は残して、針葉樹混交林を目指す



里山とは、人がずっと利用・活用してきた山のこと。里山で働き、暮らしていける未来が必要なのだと学びました。日本列島の約 69%は森林。参加者の子どもたちの世代を守るためにも、森を活かす大切さを実感しました。



みたけ・500 万人の木曽川水トラスト 今後の課題について



- 1 間伐材の有効利用
 - ・ 建築材、チップ材としての出荷
 - ・ 御嵩町政における利用、用途開発
 - ・ 木材製品への加工
- 2 針葉樹広葉樹混交林としての管理、広葉樹の植樹も
- 3 町内林家（民有林所有者）との交流、民有林間伐の支援

八事の森の整備体験会



2021年3月24日(水) 25日(木) 13:00~15:30

八事の森・興正寺公園 (名古屋市昭和区)

講師 名古屋市森づくりチーフリーダー 篠田陽作

今回のフィールド

八事の森・興正寺公園

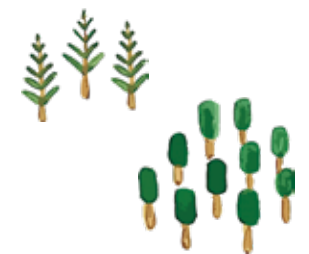
興正寺公園は、八事興正寺が1968年に敷地の一部を名古屋市へ寄付し、翌年に都市公園として利用されたもので、市民の憩いの場として親しまれています。手入れされる前の森は、木々がうっそうと生い茂り、荒れた状態になっていましたが、手入れされると太陽の光が差し込み、多様な動植物が生息する環境が整いました。

今回は、環境省環境カウンセラー・自然公園指導員の篠田陽作さんに、森の育て方や森との付き合い方について学び、実際に森へ入って間伐作業を行いました。



森を切るために、森を知る

森に入る前に、興正寺の地がどんな場所なのか、1845年頃の絵を見ながら考えてみました。絵によると、山の尾根筋はほとんどがマツで、一部スギや竹も見られるなど、約170年ほど前の興正寺の植生が読み解くことができます。一般的な「里山」とは異なり、神社やお寺に見られる「社寺林」の植生です。



公園内を散策し、たんぽぽの葉を観察。冬と春では、葉の形状が異なることが分かります。このように「違いに気付くことが大切」だと篠田さんが解説。環境によって木の生育が変化することを理解した上で「まっすぐの木と傾いている木の違いは何なのか」を考え、「この木はどうしてあげたら、よく育つか?」と想像して手入れの方法を考えます。



サクラの違いも観察。右側に咲いているのはソメイヨシノで、左側はやamazakura。yamazakuraは花と同時に葉もいっしょに出ている。

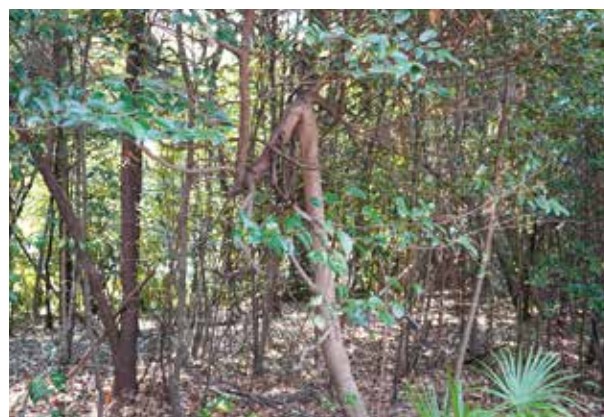
森は、長い年月をかけて手を入れる必要がある

森の手入れは継続していく必要があります。今回の間伐も草刈りのようなもので、大きな木が育ちやすくなり、水をしっかり吸えるようにするための作業です。太陽の光が入るようになると木がいきいきと育ち、森が変わるのだと学びました。



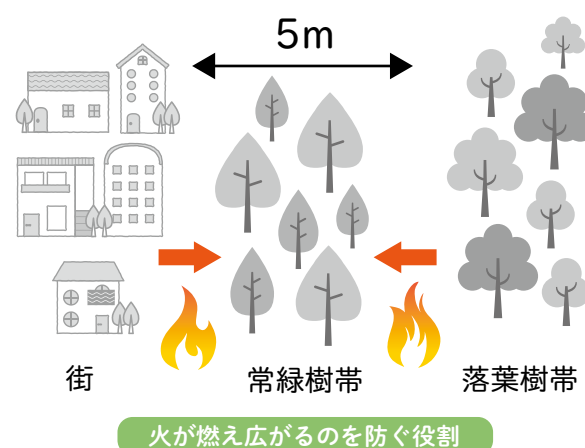
里山における間伐の目的

里山雑木林の場合、樹種は多様で、常緑樹、落葉樹、低木、亜高木、高木と階層構造も存在します。そのため、間伐といっても単純に密度（本数）管理では、その目的を達成できないので多様性のある森を作る工夫と知恵が必要になります。



間伐前

間伐前の木が生い茂ったエリア。常緑樹は防火帯になるため、森に火が燃え移らないようにするために街と森を挟む形で存在しています。



間伐後

3年前、実際に森づくりの講座で間伐したエリア。林床に光が届いて全体的に明るく、手入れから時間が経っても木々がしっかり生育しています。



森を明るくするための間伐手順

1

幹が直径 5cm 以下の木を切る。草刈りのような要領で



2

のこぎりで木を切る→枝を落とす→場所を決めて、切った木や枝を固めて置いておく



3

まずは周り 5m の範囲を基準に。だいたい切り終えたら離れて、客観的に見ながらバランスを考える（樹種、木の高さ、密度など）



4

新芽が出るように地面にたまった落ち葉をはく



3 世代かけて行う森づくり

森の成立は早くても 250 年かかります。参加者のように若い世代が今後 50 年、森を見守り続け、その間に次世代を育て継続させていくことが必要だと学びました。「大切なものは目に見えないからこそ、それを感じる心を大切に」という篠田さんからのメッセージとともに全員で記念撮影。





F o r e s t P r o j e c t A c t i v i t y R e p o r t



次世代を支える若い世代と一緒に、市内に点在する「森」を訪れ、その森や周辺が抱えている問題を知り、映像の作成、SNS での発信などを通じて解決策を考える講座を開催。初回は、なごや西の森と熱田の杜を訪ね、ゼロから市民の手で創った森と 1,900 年にわたって維持されてきた森の違いを体感しました。

森の創出と森の保護

2021 年 3 月 17 日（水）13：00～17：00

戸田川緑地公園（名古屋市港区）、熱田の杜（名古屋市熱田区）

コーディネーター 長谷川明子（ピオトップ・ネットワーク中部会長、なごや環境大学アドバイザーボード）



戸田川緑地は、戸田川の両岸に南北約 2.5km にわたり広がる名古屋市西南部で最大規模の公園です。南地区は、農業文化園、とだがわこどもランド、芝生広場などで構成されており、中央地区は「なごや西の森づくり」事業によって作られたとだがわの森、とだがわ生態園、ファミリースポーツ広場などで構成されています。

「なごや西の森」の戸田川緑地では、少人数に分かれて「戸田川みどりの夢くらぶ」の田澤さんをはじめとする皆さんにアテンドしてもらいながら園内を回りました。水田を埋め立ててゼロから森づくりを行ってきたこと、この 20 年間、森を育ててきた経験から分かってきた生態系の変化など、普段訪れるだけでは分からなかったことを教えてもらいました。



戸田川緑地の西の森を散策

約 20 年前、水田を埋め立てて作られた「西の森」は、里山を目指して多種多様な木が植樹されました。現在は市民ボランティアが育樹しており、生物の多様性に富んだ、若くて強い森をつくることを目指しています。



「小さな木から育てたのに間伐するのは、初めは抵抗があった」と夢くらぶの方が話してくれました。直径 5cm 以上の木、約 5,000 本には全て番号をつけるなど、森の管理方法についてリサーチ。

とだがわ生態園を散策

戸田川のほとりにあるとだがわ生態園は、自然観察や散策、自然体験活動ができる場所です。蛇行する戸田川となごや西の森に囲まれ、豊かな生態環境と水郷風景を観察でき、名古屋市西部の動植物が生息・生育できるエリアとして保護されています。



トノサマガエル、ダルマガエルがいる水田など、生物の生態に興味津々な参加学生。園内の小川、池、畑においては外来種が増えているという現状も。地元の子どもたちが植樹した木を間引きする体験を実施し、生物多様性を意識するための取り組みも行っているそうです。



㊦木を間伐し、明るい森になるとツルニチソウが地为うように ㊦間伐した原木に菌を打ってしいたけを栽培





今回のフィールド 熱田の杜

名古屋市の南部、熱田台地に広がる緑豊かな「熱田の杜」は、三種の神器のひとつ、草薙神剣（くさなぎのみつるぎ）の奉斎に始まる熱田神宮の森です。2013年には創祀 1,900 年を迎え、弘法大師お手植えと伝えられている大楠など、歴史を感じさせる大木が生い茂っています。

熱田の杜では、熱田神宮・林苑課の鈴木繁範さんと一緒にめぐり、参拝者の多い神宮ならではの樹木の管理や、珍しい植物などを案内してもらいました。参拝時には気付けないような一面を知ることができる、贅沢な時間になりました。



樹齢 1,000 年以上の大楠

熱田の杜の中で3番目に大きいクスノキ。中は空洞になっています。弘法大師がお手植えされたと伝えられているご神木で、昭和初期の写真と比較しても、その姿はほとんど変わっていません。蛇が住んでいて、時折姿を見せるそうです。



参道沿いのマツの木にも注目。幹の割れ目からシダが出ています。この森に十分な湿度がある証拠だと教えてもらいました。

こころの小径を散策

本宮の裏に広がる「こころの小径」を散策。「森づくりをするなら、地面に凹凸をつけると植生が形成される。わざと低地を作ことで水が溜まったり、シダが生えたりなど、冬の乾燥を和らげる効果もある」と森づくりのコツを学びました。



こころの小径の先にある大楠。特別に、参加者の学生は空洞の中に入って観察。樹齢 1,000 年の大木の迫力を直に体感できました。

参道と森の保全

熱田の杜は、クス、ケヤキ、カシ、シイ、ムク、イチヨウ、クロガネモチなどの広葉樹が多く見られます。落葉樹、常緑樹を含めると約 200 種類。本来、この地域に生えている植物を大切にしながら育てられています。



東参道は、木々が光を求めてトンネルのような形状になっています。木のバランスが悪くなってしまうため、大風で倒れてしまう可能性や覆いつくされているので枯れ枝が発見しにくいといった課題があります。



南門に向かう参道は、木を剪定して明るくなっています。「これだけの森になっていると、いかに上手に木を切っていくかが重要」と長年維持されてきた森の管理方法について学びました。管理する側としては、背が高すぎると制御不能になってしまうため、多くの人が歩く参道沿いは特に気を付けて手を入れているそうです。

2020年5月に全ての葉を落としてしまった樹齢約 200 年の木。「昔だったらまず切ることを考えましたが、樹木医と相談して切らずに幹巻きをしました。原因解明のために地面を掘ってみると、根がほとんど無かった。土壌に水が溜まる余地がなく、水分を吸い上げられなかったため葉を落としたのではとの見解になっています」と鈴木さん。水が溜まるよう土壌を改良し、ようやく芽吹くようになってきた状況は奇跡のようなこと。これが良い事例となれば、ほかの樹木にも当てはめられるのではと話していました。



植える時代から、剪定する時代に

木を「切る」という言葉はあまり使いたくないですが、上手に剪定していかないと、これからの時代はうまくいきません。植える時代から、剪定する時代になっています。今日学んだ視点を持って、森に行くと見えてくるものがあると思います。



熱田神宮林苑課
鈴木繁範さん

名古屋の森の映えスポット探し！ 森とまちづくりを考えよう

2021年3月20日（土・祝）13:00~17:30

平針の里山（名古屋市天白区）、志段味の才井戸流（名古屋市守山区）

2回目となる「名古屋の森の映えスポット探し！」は前回同様、若い学生たちとともに平針の里山と志段味（しだみ）の才井戸流（さいどながれ）を訪ね、現地の守り人にインタビュー。街の開発と自然の狭間で起きている問題は何かを考えました。

今回のフィールド 平針の里山

名古屋市天白区、平針運転免許試験場の西側に、かつて約15haの里山がありました。農地として守られていた土地です。しかし2010年、愛知・名古屋で開催されていたCOP10（生物多様性条約第十回締約国会議）の最中に開発の工事が始まり、現在はその場所の多くが宅地となっています。



かつての「平針の里山」

かつての平針の里山は、名古屋市内ではほとんど見られない希少な生き物や野生生物が生息する場所でした。水が湧き、ため池が4カ所あり、池の湿地にはトウカイコモウセンゴケ、ミズスギなどの植物が一面に繁茂。ため池の南には、大正時代に整備された3枚の棚田があり、その東には柿畑と梅林がありました。緑地の北側にはコナラを中心とした広葉樹林と竹林が広がる、固有の生態系が残っていた場所です。ここは、再生困難な里山だとして市民団体による開発反対運動も起きていました。



現在残っている里山の自然

開発工事が始まり、その多くが宅地となった「平針の里山」を、今回は中部大学の宗宮先生に案内していただきました。現在も残されている森を見学し、豊かな自然に触れることで、「いかに里山を残すか」について考えるきっかけとなりました。

今回のフィールド

志段味の才井戸流



名古屋市で最大規模の湧水地である守山区志段味の才井戸地区。その水でかん養されている通称「才井戸流れ」には、希少な水草類が生育するなど独自の生態系が構築されています。現在では、急速に開発が進み、かつて水田と湿地、森に囲まれていた時代とは様変わりし、美しい湧き水と生態系の保全が厳しくなっている状況にあります。



いまなお美しい水が流れる小川や池、里山や湧き水で見られる淡水紅藻類のカワモズクなどの生き物を観察できました。



才井戸流では、「中志段味の自然を次世代に伝える会」の深田さんをはじめとする会のみなさんに、湧き水やこの場所ならではの豊かな自然を案内してもらいました。見学させていただいた場所の横には、メンバーシップ制の大型商業施設が2021年夏に開店予定。自然と生活利便性の共生について考えました。

名古屋の森の映えスポット探し！ 映える動画をつくってみよう！

2020年3月24日（水）13:00～18:00

エコパルなごや



若い世代のみなさんと名古屋の特徴的な4つの森を訪れ、講師の皆さんからの解説、そこで感じたことや学んだことを共有し、得られた感動や伝えたいことを動画で編集するワークショップを行いました。参加者それぞれが、次世代まで伝えていきたい思いを30秒の動画にまとめました。



title

戸田川緑地 夢くらぶの皆さんと共に

作者コメント

戸田川緑地は昔水田だった場所を埋め立て、そこにコツコツと様々な樹を植え、ボランティアの方々を中心に管理をして出来上がりました。この緑地は野原に田んぼ、畑に小川と、いろんな種類の生物が生息できるような環境が整えてあります。もちろん森もあり、その中には立派なシイタケやカブトムシの幼虫も！森は間伐などをして管理されているので、一般的な森と比べて明るく、歩くと気持ちがいいですよ。今でも様々なイベントを開催しているので、気になった方は是非訪れてみてください！



title

熱田神宮の森

作者コメント

熱田神宮は、三種の神器の一つである、草薙剣がご神体であることや、学問の神様である菅原道真公をお祀りしていることで有名ですが、実はそれだけじゃない、「すごい」ところなんです。樹齢1000年の大楠を始めとした木々には一つ一つ歴史があります。そして、その木々を見守る神主さんを始めとした人々。そんなところに注目してみると、いつもと違う熱田神宮が見られるかもしれませんね。



title

SATOYAMA OF HIRABARI

作者コメント

平針の里山は、町中に残された生き物たちにとってのオアシスで豊かな自然がたくさんあります。ですが住宅地の開発によりほとんどの森が失われてしまいました。人々の暮らしは豊かになったのかもしれないけれど、本当の豊かさとは何だろうか、そんな事を考えさせられる動画になっています。どうしても人間は、人間を中心に考えがちです。また生き物中心というのも間違っていると僕は思います。これからの世の中が、どちらかではなく、どちらも共存、共生ができる世の中でありますように、我々次世代が発想を膨らませていきます！



title

才井戸流の森

作者コメント

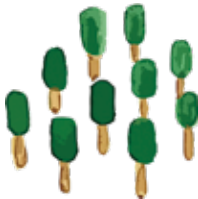
七代先まで変わらない自然を。



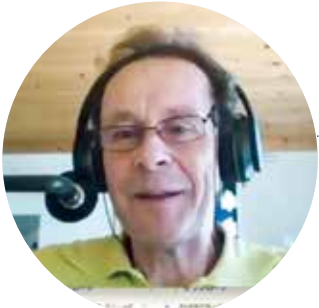
短期集中の「名古屋の森の映えスポット探し！」講座でしたが、30秒の動画の中に参加者みんなの思いが詰まった素敵な作品に仕上がりました！動画は、なごや環境大学YouTubeチャンネルにて2022年3月31日まで見られます。

なごや環境大学 SDGs オンラインセミナー
グリーンフォレスターと語ろう！「生物多様性を高める森づくり」

2021 年 3 月 24 日（水） 18：00～20：00
Zoom ウェビナー（オンライン）



森林破壊した歴史を超え、現在は自然と共生したまちづくりを実践する先進国スイス。人工林の生物多様性を高め、林業も黒字にしている「近自然森づくり」を森のプロフェッショナルから学ぶセミナーです。スイスの林業・近自然森づくりから、なごやの森づくりや都市部の消費者としての活動の参考にしていきます。



講師 **Rolf Stricker**
スイス国認定 フォレスター（森林管理官）



森の生物多様性を高め、市民への環境教育の実践も行っていることから「グリーンフォレスター」とも呼ばれている。毎年日本を訪れ、各地の林業現場でワークショップを開催。蝶が大好きで、日本を来日することに蝶を求め北や南へ！



講師 **山脇 正俊**
近自然研究所 所長



スイスに在住し、スイス、ドイツで実践されている「近自然学」について研究している。近自然は、川づくりだけでなく、森や街づくりなどでも実践。日本に先進国の情報を解説し、近自然の架け橋となっている。

<http://www.kinshizen.jp/homepage/profile-jp.html>

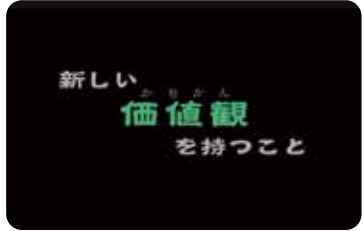


なぜ森が必要なのか？ スイスの森から考える



森には、木材生産、地下水の保護、洪水低下、レクリエーション、生物多様性などのさまざまな機能があります。そして、紙やチップ、家具の木材、食材など生産物も提供してくれています。つまり森は、巨大な工場ともいえます。森は煤煙や騒音、ゴミさえ出しませんし、全てを循環させてリサイクルしています。

スイスでは、人口一人あたり 0.17ha、チューリッヒでは 0.04ha の森が存在し、林業で利益を生み出す仕組みができあがっています。地元の木材を使うことは、資源のエネルギーの地産地消です。森という「美しい工場」を持つ必要性和素晴らしさを実感しました。



アフターコロナの世界 「新しい価値観」を考える

新型コロナウイルスの流行が収束しても元の世界には戻りません。「近自然」の考え方は、未来をイメージする際のヒントとなります。まず、時代の変化やパラダイムシフト、今後を生きていく私たちに必要な価値観について考えます。

●量→質

満腹になれば満足する時代は終わり、量と質の両立が必要に

●集中→分散

かつては富や権力が集中することが裕福の象徴でした。今はそれでは満足できません。現代は、みんながほどほどの豊かさでささやかな幸せを求めています

例：都会に暮らす→田舎へ移住
集中エネルギー（石油、原子力）→分散エネルギー（太陽エネルギー）

●所有→利用

何でも所有しがっていた時代からシェアリングへ。
電気スクーター、ベビーカー、オフィス、ベーシックインカムなど

例：ワークシェアリング
職を複数人で分け合う…一つの職を2人、3人で行う方法
人材を数社で分け合う……Aさん⇒B社＋C社の兼業など

▶時代が変わると「システム」を変える必要がある

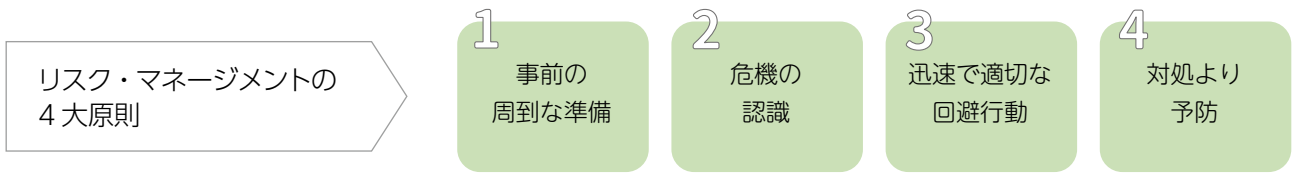
価値観が変わる⇒ライフスタイル⇒ニーズ⇒マーケット⇒「システム」の変化

システムの変化＝パラダイムシフト（考え方の元を変える）

⇒近自然とは、新しいパラダイムの一つの提案。今後活用できる考え方！

古い価値観から、新しい価値観へ

次世代に向かう私たちに必要なリスク・マネジメントとは



私たちより長く生き延びてきた動植物から、リスク・マネジメントを学ぶことができる

- 持続を優先⇒獲りつくさない、成功はほどほどに
- 多様性⇒リスク分散
- 即応性⇒グズグズしない、議論・検証は後で良い
- 物質循環⇒ゴミを出さない
- 自立＆ネットワーク

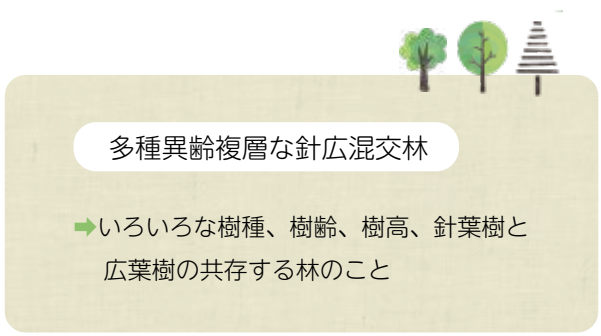


明るく豊かな森は、いろいろな要素を実現する ＝「多様性」＝ 近自然の森林



近自然の森づくりとは

近自然の森では、自然に生える多様な木々を育てることが大切です。密や祖の変化を作り、同じ場所に細くて低い若木、太くて高い老木も混在する多様性のある森を作ります。細長い木々は、雪や嵐により折れたり倒れたりするため、安定性のある木を育てるのも重要な要素です。



近自然の森を維持するには、私たちが木造建築、橋、器、家具などで適切に木を活用しなくてはなりません。特に大切なのは、廃材チップの活用。スイスの村では、チップを使い、エネルギーをシェアする地域暖房が至る所で活躍しています。
コロナ後の世界がどうなるかは決まてはいないからこそ、今はビッグチャンス。私たちがどうイメージするかにかかっています。近自然の考え方を踏まえてパラダイムシフトをして、気持ち良い社会を実現する必要性を学びました。



次世代の名古屋で森を維持していくために



名古屋とスイスの森を参考に、どのように名古屋の森を維持していくのか、都会における森の問題を考えました。いま私たちが感じている課題を次の世代に受け継がないために、どういう仕組みをつくったらいいのか？という視点で学ぶ機会となりました。
学生たちからは「森に行ったことがない友だちが多い」「森の現実を知らない人が多い」という課題を共有されました。まず、知ってもらうために今回は 30 秒ほどのコマーシャル動画を制作。
森のフィールドワーク、スイスとのオンライン講座を通じて、「森がどれだけ大事なのか」「森無しでは私たちの健全で幸せな生活は成り立たない」と感じ、生きるうえで何が大事なのか見直す機会になりました。



Forest Project Activity Report



なごや環境大学 森林プロジェクト
2020 年度活動報告書

■ なごや環境大学 森林プロジェクトチーム

■ 協力

設楽町神田地区のみなさま
岐阜県立森林文化アカデミー
岩間造園株式会社
昭和区役所
熱田神宮

2021 年 3 月発行

編集・発行「なごや環境大学」実行委員会

〒460-0008

愛知県名古屋市中区一丁目 23 番 13 号 伏見ライフプラザ 13 階

TEL 052-223-1223

<https://www.n-kd.jp/>

